

(6) 中学校 授業改善の特記ポイント

国 語

<国語への関心・意欲・態度>

☆単元の「目標」やその時間の「ねらい」を明確にしましょう。

◆この単元でどのようなことに取り組むのか。＝〈活動のゴール〉

◆この単元でどのような力を身に付けるのか。＝〈学習のゴール〉

何に取り組む中で、どのような力を身に付けていくのかを明らかにします。2つのゴールを明確にし、目的意識と到達後の自分のイメージをもたせて学習に取り組ませることが大切です。

(例) 第1学年〔書くこと〕の単元名の例

学校紹介パンフレットをつくろう . . . . . 〈活動のゴール〉

—効果的な構成を工夫して分かりやすく書く— . . . 〈学習のゴール〉

<話す・聞く能力>

☆話し合いを目的に沿って進行し、互いの意見や考えを深めたり広げたりすることのできる力の育成を図りましょう。

聞くことの指導を充実させ、「聞きながら考えをまとめる力」や「聞いて評価する力」を着実に身に付けさせることが大切です。また、話し合い活動の内容を工夫し、互いの意見や考えを深めたり広げたりできるよう設定することも必要です。

(例) 〈問題解決的な学習活動を工夫する〉

「中学校を宣伝するコマーシャルの企画書を作成する」

グループで企画会議に取り組み、話し合い活動で企画書を作成させます。

<書く能力>

☆書くための材料を集め、分類・整理しながら自分の考えをまとめる過程に重点を置いた指導を充実させましょう。

(例) 〈思考の過程を確かめながら考えを形成する学習活動を工夫する〉

「調べたことを基に、20年後の暮らしを予測した意見文を書く」

文献やデータからどのように考えを形成したかの過程を記録に残させます。

<読む能力>

☆身に付けさせたい力を明確にし、目的に沿った学習活動を設定して、読むことの教材を取り上げる指導を充実させましょう。

(例) 〈人物の心情や情景描写をきめ細かく味わい、より深く物語を理解することにつながる学習活動を工夫する〉

『大造じいさんとがん』再発見 —より深く読み取り、より深く味わう—

語句の使い方や表現の工夫に着目させ、それがどのような効果を生んでいるかを捉えさせましょう。

<言語についての知識・理解・技能>

☆語彙を豊かにし、語感を磨く指導の充実を図りましょう。

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導と効果的に関連付けながら、「読める・書ける」から「使える」につなげ、語彙を豊かにしたり語感を磨いたりしていけるよう工夫をすることが大切です。

<社会的事象への関心・意欲・態度>

☆適切な課題を設けて行う学習の充実を図りましょう。

社会の変化に主体的に対応できる能力を育成し、自ら学ぶ意欲や課題を見いだし追究する能力や態度を育成することが重要です。生徒の興味・関心を高めるとともに、自ら課題を見だし、自ら学び自ら考え、課題を解決する力を育成することを目指して、生徒の主体的な学習を促すような構成、展開を工夫することが大切です。

(例) ④(4)中世の歴史の学習を踏まえ、意欲的に探究しようとしているか

- ・中世の特色を捉えることができる学習課題を見いだす活動
- ・中世の特色を捉えることができる学習方法を明らかにする活動 など

<社会的な思考・判断・表現>

☆習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明させたり、自分の意見をまとめさせたりする学習の充実を図りましょう。

日本の気候の特色をとらえる学習において、気温と降水量の月別の変化などの学習から、他地域と比較して関連付けて、地域の共通点や差異などに着目して、多面的・多角的に考察し、その結果を表現する学習を設けることが大切です。

(例) ③(2)日本の気候の特色の理由を正しく説明することができるか

- ・資料を読み取らせて解釈させる活動
- ・議論などを行って考えを深めさせたりする活動 など

<資料活用の技能>

☆地理的スキルを育成する指導の充実を図りましょう。

世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを活用し、学習成果を世界地図上や略地図上に表現するなどして、地理的スキルを育成することも重要です。諸資料を通して、「収集する技能」、「読み取る技能」、「まとめる技能」を生徒の習熟の様子を踏まえて着実に身に付くよう、繰り返し指導する機会を設けることが大切です。

(例) ②(3)南アメリカ州の地域的特色を資料から捉え、説明することができるか

- ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める活動
- ・必要な情報を選んで、事実を正確に読み取る活動 など

<社会的事象についての知識・理解>

☆「我が国の歴史の大きな流れ」を理解するための学習の充実を図りましょう。

歴史的分野については、我が国の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や時代の転換にかかわる基本的な内容の定着や、課題追究的な学習を重視して改善を図ることが大切です。諸事象の意味や意義、事象間の関連などを追究して深く理解し自分の言葉で表現する学習を重視することが大切です。

(例) ⑤(2)古代の歴史的事象を正しく理解しているか

- ・学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動
- ・各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習 など

## 数 学

### <数学への関心・意欲・態度>

☆数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする指導の充実を図りましょう。

数学を学ぶことへの意欲を高めるとともに、数学的活動に主体的に取り組むことができるようにし、数学のよさを実感できるようにすることが大切です。

(例) ⑥(4) 図形の作図に意欲的に取り組もうとしているか

- ・ 定規とコンパスを使わず図をかくことと、作図した図を比較する活動
- ・ 基本的な作図をする必要性を実感させる活動 など

### <数学的な見方や考え方>

☆「式」、「図」、「言葉」を関連付けて考えさせる指導の充実を図りましょう。

課題把握や自力解決の場面において、図や説明に対応する式を導き出したり、式に対応する図や説明を見いだしたりすることを通して、「式」、「図」、「言葉」を相互に関連させ、様々な視点から考察できるようになることが大切です。

(例) ②(2) 式を表す図と説明を考える

- ・ 図を基に立式したり式の文字や数が何を表すのか説明したりする活動
- ・ 「式」、「図」、「言葉」で数学的に表現するときに、それぞれの表現の良さを考え、相手に伝わるように説明し合う活動 など

### <数学的な技能>

☆反復学習や立ち戻る指導など、個に応じた指導の充実を図りましょう。

ペーパーテストなどで各生徒の習熟の程度を把握し、状況に応じて立ち戻る指導を行うなど、個に応じた指導の充実を図ることが大切です。

(例) ②(1) 式の値を求める

- ・ 式の値を求めることを繰り返し行う活動
- ・ つまづきを把握し、それに応じた指導を行う（代入時の誤りなのか、指数の計算の理解が足りないのか等を、生徒の解答から判断する。）
- ・ 誤答の分析から個に応じた課題を設定し、取り組ませる活動 など

### <数量や図形などについての知識・理解>

☆既習事項を生かし、新たな知識を構成する指導の充実を図りましょう。

数学は、系統性を重視し、それまで学習した事柄に基づいて新しい内容を構成していくので、どれくらい既知事項を生かすことができるかが重要である。反復学習とともに、数学的な見方や考え方を通して知識を習得し、次の問題解決の際に生かせるような指導を行うことが大切です。

(例) ⑦(1) ねじれの位置にある辺について正しく理解するために

- ・ 空間図形における辺と辺の位置関係について、具体物を用いて指導する。
- ・ 平行な辺と、垂直な辺について確認する。

## ＜自然事象への関心・意欲・態度＞

☆学習内容から疑問をもったことを深める探究的な学習場面の設定をしましょう。

単元の学習終了時に、学習したことから新しく出た疑問について、探究的な学習場面を設定し、学習意欲を向上させることが大切です。

- (例) ①(4)「植物のからだのつくりとはたらき」の学習内容を探究させるために
- ・植物の葉が授業で扱った内容の他にどのようなはたらきをしているかについて、根拠をもって推論させる活動
  - ・植物の生活している環境の違いによる体のつくりやはたらきを、根拠をもって推論させる活動 など

## ＜科学的な思考・表現＞

☆「結果が、なぜそのようになるのか」理由を考える学習場面の設定が大切です。

観察・実験を行う際に仮説や実験計画を立てさせてから、観察・実験を行い、「結果が、なぜそのようになったのか」について、仮説に戻って考えさせることが大切です。

- (例) ③(3)温度と状態変化の関係に関する実験の指導
- ・仮説を立てて、調べる要因に応じて「変化させる要因」と「固定する要因」を明確にして、実験計画を立てさせる。さらに、実験後の結果を予想させる。
  - ・予想した結果どおりにならなかった理由を言語活動を通して考えさせる。 など

## ＜観察・実験の技能＞

☆習熟を図る機会を増やし、適切な使用方法を指導することが大切です。

実際に道具や器具等を使用する際に、生徒同士で使用方法を確認させる、器具等の仕組みを理解させる、操作の機会が増えるように観察・実験の個別化を図ることが大切です。

- (例) ⑥(2)火山灰から鉱物を取り出す方法の指導
- ・適切な操作ができるか、1人1回実際に操作をして、生徒同士で教え合う。
  - ・1回の実験での観察について、グループの人数分の機会を設け、1人ずつ操作の機会を与える。 など

## ＜自然事象についての知識・理解＞

☆モデル演示等により、実感を伴って知識を定着させる指導をすることが大切です。

直接観察したり、確認したりできない自然事象について、モデルや模式図などを活用して視覚化し、実感を伴った理解ができるように指導することが大切です。

- (例) ⑦(1)地震の波の伝わる速さを推測させる指導
- ・観測地点の地震計の計測結果を図示し、距離の差と時間の差をそれぞれ見だし計算させる指導をする。 など

#### <コミュニケーションへの関心・意欲・態度>

☆生徒が意欲的に取り組めるような具体的な課題を設定しましょう。

生徒が興味をもって取り組むことができるよう、自分の好み、学校生活や家庭生活、過去の出来事や将来の夢など、生徒の実態に即した話題を選択することが大切です。お互いの考えや気持ち等を伝え合う必然性のある活動、生徒が目的をもって取り組むことのできる活動を易しいものから段階的に計画するようにします。

具体的には、将来の夢についてスピーチを作成する際、前年度の原稿を参考として読ませる活動や、学校行事の感想等について、ALT に電子メールで報告する活動などが考えられます。

#### <外国語表現の能力>

☆既習事項を活用して表現する場面を設定しましょう。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じた具体的な言語活動を設定しましょう。その際、意図的に既習事項を活用するよう場面を設定し、繰り返し使用させる中で知識・技能の定着を図ることが大切です。

例えば、「3人称・単数・現在形」を扱う場合であれば、家族について口頭で紹介する活動を行い、十分に音声で慣れ親しんだ上で話した内容について書く活動を設定するといったことが考えられます。日々の指導の中で既習事項を意図的に取り入れ、生徒が自分の考えや気持ちを表現できるように指導するようにします。

#### <外国語理解の能力>

☆目的に応じた読み方を指導するようにしましょう。

まとまりのある英文を読み理解を深めていくためには、「必要な情報を読み取る」「概要を把握する」「要点を捉える」といった目的に応じた読み方が求められます。生徒が教科書の英文を読む際にも、常に読み取らせるポイントを意識させながら、把握する内容に軽重をつけた読み方を指導していくことが重要です。

例えば、ある学校の文化祭について読み取る際、各イベントの日時や場所について読み取る活動、文化祭の全体予定を踏まえ、どのイベントであれば友人と一緒に参加できるか読み取る活動など、様々な読み方を指導するようにします。

#### <言語や文化についての知識・理解>

☆知識を繰り返し使用することで、実際に活用できる技能を身に付けさせましょう。

コミュニケーションの目的・場面・状況等に依りて既習事項を活用することができるように指導過程を工夫し、定着を図っていくことが大切です。生徒自身が意味のある文脈の中で既習事項に繰り返し触れるとともに、実際に活用できるような場面を設定することが重要です。

例えば、パターン・プラクティスのような基礎的なドリル活動から、自分の考えを英文の一部に当てはめて話す活動など、同じ言語材料を段階的・発展的に活用する場面を繰り返し設定するような指導が考えられます。目標の語彙・表現を繰り返し使用する活動を通じて、これらの学習内容を定着させるようにします。